

## 地域ケア推進会議 報告書

## 【医療・介護連携に関する場合のみ】

提出日	2026年3月31日
作成 高齢者支援センター	医療と介護の連携支援センター
作成者	佐川 幸子

1.開催日時	2026年3月3日	(火)	13:30	～	14:30
2.会場	オンライン				
3.主催センター	医療と介護の連携支援センター				
4.参加人数	63人				
5.参加者内訳	<input checked="" type="checkbox"/> 高齢者支援センター 10人		<input checked="" type="checkbox"/> 医療と介護の連携支援センター 4人		
	<input checked="" type="checkbox"/> 医療関係者 13人 (うち、医師 3人)		<input checked="" type="checkbox"/> 介護事業者 35人		
	<input type="checkbox"/> 民生委員 人	<input type="checkbox"/> 老人会 人	<input type="checkbox"/> 住民 人		
	<input type="checkbox"/> 町内会自治会 人	<input type="checkbox"/> 警察 人	<input checked="" type="checkbox"/> 行政 1人		
	<input type="checkbox"/> その他 ( )				
6.開催テーマ	かかりつけ医とつながるために ～連携ツールの有効活用について～				
7.地域課題	(1) 課題設定の背景				
	<p>前回の地域ケア推進会議において、地域の医師と本人・家族、介護事業所等の連絡や連携において情報連携ツールの更なる活用が必要であることがわかった。情報連携ツールとして従来から使われている電話やFAXと並び、MCS等SNSの普及が進んでいる状況を把握している。</p> <p>(2) 検討した地域課題</p> <p>かかりつけ医とつながるために即時性に優れた電話や、普及率の高いFAXに加え、1つの発信を複数の受け手が共有できる情報ツールとしてMCS等のSNSツールが有効であると考えられる。</p> <p>しかしながら普及率はまだ低く、医療機関や介護事業者によって利用頻度もまちまちである。共通の情報連携ツールというには認知と活用が進んでいないという課題がある。</p>				
8.医療と介護の連携に関する課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かかりつけ医と専門職の情報連携が円滑に行えていない。</li> <li>・電話やFAXに加えて、情報共有に長けたツールを共通して使っていく土壌がない。</li> </ul>				
9.会議の内容	<p>①基調講演(増子クリニック 増子先生) 実際にクリニックにて活用している、主に在宅診療における連携や連絡の手段として、電話に加えMCSを活用する場面が増えている。電話に代替するものではなく並行して活用すべきツールとして町田市でも検討が望まれる。</p> <p>②地域ケア会議の主旨・経緯・及びグループワークの題材説明</p> <p>③グループワーク 講演内容をもとに参加者の情報連携ツールへの考え方や活用した場合の利点や欠点について実施。参加者の中でもMCSの認知度や使用頻度に偏りがあり、「システムが理解できていない、ハードルが高い」、「夜間や休日の連携方法等、ルールを明確化する必要がある」、「地域で推進してくれるなら導入していきたい」等の意見があった。</p>				
10.課題に対する対応策・今後の地域での展開	<p>本会議を通して、SNSを用いた連携ツールを活用するにあたり、夜間や休日の連絡方法について一定のルールを作成していく必要があることが分かった。ルールを整備し、地域での共通ルールとして共有することで、より活用しやすくなると考えられる。また、グループ作成や招待に対するハードルが高いことも課題として挙げられた。運用面での工夫を行うことで導入のハードルを下げていくことが考えられる。</p>				
11.その他					

医療と介護の連携支援センター 確認日	月 日
--------------------	-----